

# 五高五十年史目次

題	纂 <small>（小島名譽教授）</small>
寫	眞 <small>（白壁教授）</small>
題	字 <small>（行幸校旗校長校庭）</small>
序	文 <small>（松浦前校長）</small>
例	言 <small>（十時現校長）</small>
總	說 <small>（編纂主任）</small>
第	一
一	篇

- 第一章 九州最高の學府第五高等中學校の創設……………一五
- 第一節 本校設立前に於ける明治時代の教育……………一五
- 第二節 學制の改革と森文部大臣の經綸……………二九
- 第三節 本校の設立と敷地の選定……………四一
- 第四節 入學・學科・程度等に關する相談會……………四六

第二章 古城時代の本校と長崎醫學部 <small>(自明治二十年至同二十二年)</small> .....	五九
第一節 假校舎、生徒募集、入學試業、學科課程等.....	五九
第二節 紀元節奉祝式・入學式等に現れたる校風の樹立.....	六六
第三節 醫學部の附設.....	九七
第三章 新校開校と其後の第五高等中學校 <small>(自明治二十二年至同二十七年)</small> .....	一五
第一節 地域の廣袤と建築の偉觀.....	一五
第二節 新校開校式及び官制の改正等.....	二五
第三節 本校設置區域内各縣協議會並に各縣經費分擔等.....	一四六
第四節 御宸署の勅語と勅語演説.....	一六五
第五節 第一回卒業式と送別會附二十五・六年に於ける本校.....	一七五
第二篇	
第一章 第五高等學校前期 <small>(自明治二十七年至大正七年)</small> .....	一八五
第一節 改稱の経緯と井上文部大臣の抱負.....	一八五
第二節 日清戰爭當時の龍南.....	一九四
第三節 宣誓式施行前後の龍南.....	二〇九

第四節 其後の醫學部と分立.....	二三
第五節 工學部の設置より分立まで.....	二四〇
第六節 日露戰爭當時より明治末年までの龍南.....	二五三
第七節 御大葬と桃山御陵參拜附獻木並に皇太后陛下の御大葬遙拜式.....	二七二
第八節 御即位禮奉祝式、御大典式場跡拜觀修學旅行並に立太子禮奉祝式.....	二八〇
第二章 第五高等學校後期 <small>(自大正七年至昭和十二年)</small> .....	二八五
第一節 現行制度施行の事情と改正の内容.....	二八五
第二節 皇太子殿下の行啓と當時の本校概況.....	二九六
第三節 開校三十週年.....	三二三
第四節 今上陛下の行幸と御親閲.....	三二九
第五節 第十三臨時教員養成所.....	三三一
第六節 思想界の推移と龍南人.....	三三六
第七節 本校の現況と開校五十年記念式典.....	三四八

## 第三篇

第一章 寄宿舎の五十年.....	四〇五
第二章 龍南會の今昔.....	四三三

第一節 龍南會の成立と龍南會雜誌の創刊	四三
第二節 龍南會の傳承と雜誌の「龍南」改題	四三

## 第四篇

第一章 補遺	四四
--------	----

一、各宮殿下の台臨竝に奉送迎	四四
二、帽章と白線	四五
三、修學旅行より野外演習まで附兎狩	四五
四、提灯行列	四六
五、栽樹會	四六
六、門札とポスト	四六
七、カッター來る	四六
八、私的の諸會	四六
九、來校の名士	四七
十、金品の寄附	四七
十一、卒業式より敍別式まで	四八
十二、ブール	四八

十三、對七高戰	四九
第二章 任命順職員一覽表附索引	四九
第三章 編年沿革略	五一

結語	五一
----	----

## 附錄

五高同窓會と開校五十年記念會	五一
一、五高同窓會小史	五一
二、開校五十年記念會	五一

## 〔表〕

(一) 本籍別現在數(自明治二十一年至昭和十二年)	二七
(二) 平均・最高・最低年齡(自明治二十一年至昭和十一年)	三八
(三) 入學者數、在籍者數、卒業者數、卒業者中死亡者數(自明治二十年至昭和十二年)	三九
(四) 卒業者地方別概要(昭和十二年十月現在)	五七
(五) 卒業者職業別概數(昭和十二年現在)	五七

## 〔圖〕

(一) 計畫圖面……………	二二
(二) 新築當時圖面……………	二二
(三) 昭和十二年現在圖面……………	二三
(四) 醫學部圖面……………	二四
(五) 工學部設置當時圖面……………	二五

## 頭書緒次引得……………

卷末

## 總 說

編纂の目的と態度

學制五十年史の時期

校史の前提と本校の四期

第五高等學校五十年史の編纂は、何の爲に企てられたのであるか。有形に無形に、常に本校の現在に活きて、之を動かしてゐるところの過去を再検討して、斷えず何等かの新計畫を樹立すべき未來に對して、適切妥當なる資料を提供せんとするに外ならぬ。然らば過去五十年間の記録なり遺物なりを、如何なる態度を以て叙述すべきであるか。編年體に依るべきか、記傳體に従ふべきか、史論體を採るべきか、抑と時代別と爲すべきか。本書は、その何れにも偏することなく、時代に大別したる後、他の三體を併用せんとするものである。

大正十一年文部省編纂の學制五十年史の如きは、學制頒布以前、即ち明治元年より同五年までを第一期とし、五年の頒布後同十二年教育令公布までを第二期とし、それより同十九年學校令公布までを第三期とし、該令公布後、同三十二・三年頃、その改正の必要を生じたるまでを第四期とし、學校令改正後同四十年義務年限延長までを第五期とし、延長實施後大正十一年までを第六期とし、第六期を更に明治末年と大正とに分けてゐる。而して本校の歴史は、その第四期以後に相當するのであるが、學制中特殊の地位に在る高等學校は、稍と其趣を異にするので、明治元年以後學校令公布までを略述して、之が前提と爲し、同二十年、第五高等中學校創立以後同十二年までを、第一期古城假校時代とし、二十二年九月、新校開校以後、同二十七年、第五高等學校と改稱されるまでを、第二期新校開校後の第五高等中學校時代とし、同二十七年改稱以後、大正七年現行制度制定までを、